

基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み	行動計画
認め合い、支え合う笑顔の楠校区	いつまでも生き生きと過ごせる優しいまち	高齢者、障がい児・者に関すること	高齢者の孤立、見守り	<ul style="list-style-type: none"> 閉じこもりがちな高齢者の方が増えている（若い頃は付き合いがあったのに高齢化とともに閉じこもる） コロナ禍でコミセンや集会所がたびたび使用出来なくなり、サロンが開催できなくなっている 一人暮らし高齢者の増加、昼間はデイサービスやヘルパーさん等で見守りされているが、夜間が心配 8050問題が楠校区でも増えてきて、独居世帯ではないため支援の手が届きにくいのではないか 団地が出来て50年、子ども世代が他の地域へ移り住み高齢者世帯の増加や老々介護につながっている 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ多くの方が参加できるサロンやバザーを開催する 各ふれあい・いきいきサロンの再開 できるエリアからストレッチや太極拳等を通してつどいの場を設け、運動不足の解消と交流を図る 隣近所で声かけ、見守りを行う 熊本市の高齢者安心支援事業を活用する 8050問題等把握した情報を必要に応じて関係機関へ提供する 	<ul style="list-style-type: none"> ふれあい・いきいきサロンの拡充 ふれあい・いきいきサロンや隣近所による見守り推進 相談窓口の情報提供、関係機関との連携
			認知症高齢者の増加	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の高齢者が増えている（家族や周囲の認知症に対する理解不足） 認知症も一つの病気で誰でもなりうる病気なのだという住民の意識 身近に認知症の方がいないと意識をむけることが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> 地域役員以外にも認知症についての理解を広める 認知症の方を介護している家族の交流の場を作る 家庭内の問題と抱え込まないよう相談窓口を周知する 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民向け認知症サポーター養成講座の開催 認知症声かけ模擬訓練の継続的な開催 認知症カフェの立ち上げに向けた協議
			高齢者、障がい者の外出	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者は買い物、通院に苦労している方が多い 地域の高低差は少ないが、歩道等に段差があり車椅子の方や、身体障がいをお持ちの方が気軽に出かけにくい 	<ul style="list-style-type: none"> 移動販売や配達が可能なお店の情報提供 必要に応じて介護保険適用のタクシー利用を検討 障がい者への理解を深めるための学習会を開催する 	<ul style="list-style-type: none"> 移動販売や配達可能な店の情報発信の体制づくり 介護保険サービスについての情報提供 障がい者における相談機関との連携
	子ども達の成長を暖かく見守り地域の目が注がれるまち	子ども子育てに関すること	子育て世代の繋がりが希薄化	<ul style="list-style-type: none"> ひとり親世帯の情報把握しにくく、支援が必要な世帯が分からない（情報の共有化） 何か困ったことがあった時にどうしたらいいか、誰に言ったらいいのかわからない 保護者同士の付き合いが減っている（児童、生徒数とPTA数も減っているのに前より保護者同士が繋がらない） 子育て世代は共働きが多く行事に参加することが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> 繋がりを強化するため子育てネットワークと連携する 相談窓口を周知する ひとり親世帯における行政からのサポートを周知する 子供会の人数が減って大変な廃品回収などを、老人会自治会などが積極的に手伝い校区全体の行事とする 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代の交流となるイベント開催について自治会と連携 子供会行事への協力 ふれあいママクラブ（子育てサロン）への支援 子育て世帯への情報提供
			家庭、学校、地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 家庭、学校、地域の連携のとり方が難しい（近所付き合いが減ったこと、先生方の働き方改革等で連携が難しい） 学校を支援する諸団体（老人会、自治会等）が高齢化し積極的な支援活動が減りつつある 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の長期休業に開催している寺子屋で子どもたちの状況把握を行うとともに学校との連携を図る 小学校の花の苗植えを老人会や他団体と協力し実施することで子ども達と地域の交流を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の事業（寺子屋等）を工夫し、内容を充実させることで世代間交流を図る 各種団体と連携し小中学校との協力体制を強化する
	安全で住みやすいまち	暮らしに関すること	住民同士の交流、支え合い	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で催しが出来ないため、人とのふれあいが持ちづらく地域のつながりがますます希薄になっている 支えなくてはならない高齢者の方は多くなっているが支える側の若い人が少ない（仕事があり活動しにくい） 近所付き合い等、住民同士の連携が乏しい 新しい世帯が増えにくいことから高齢化率が高く、自治会が活性化しにくい 校区のことに限らず、いろいろなことに興味、関心がないと感じる（子育て世代は共働きが多く、仕事、家庭、育児で精一杯な状態） 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者が楽しめるイベントの企画 回覧板を渡す際の声かけ推進 コロナ禍でもできる活動の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 自治協主催の行事（秋祭り等）に積極的に協力する 支え合いの体制づくりを目指したニーズ調査
			空き家、交通量の増加に伴う防犯と安全	<ul style="list-style-type: none"> 公営住宅の老朽化のため最上階はほとんど入居者がいない（エレベーターがない、鳩の被害が多い事が理由） 高齢化に伴い空き家が増え防犯上、不安がある 老人会による登下校の見守り活動も動ける人がだんだん減っている 交通量が多い車の速度も速い、抜け道として利用されるため子どもの登下校が心配 	<ul style="list-style-type: none"> 公営住宅の課題を共有化する 防犯、安全対策のため登下校の見守り声かけの継続 ウォーキングしながら校区内を見て回る 	<ul style="list-style-type: none"> 公営住宅の老朽化、空き家について校区内で共有し行政へ情報提供を行う 登下校の見守りについて老人会と連携を図る